

平成29年2月10日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成29年2月10日(金) 午後3時00分
場所	教育委員会室
開会	午後1時00分
閉会	午後1時40分
出席委員	
教 育 長	加 藤 裕 之
委 員	雁 部 隆 治
委 員	阿 部 博 道
委 員	坂 根 慶 子
委 員	淺 松 三 平
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岸 川 紀 子
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長事務取扱)	高 橋 宏 幸
学 務 課 長	須 藤 浩 司
指 導 室 長	月 田 行 俊
生涯学習課長	岡 本 香 織
スポーツ振興課長	佐 久 間 英 樹
ひきふね図書館長	石 原 恵 美

2 議題について

(1) 議決事項

第1 議案第7号 旧あずま図書館の用途廃止について

第2 議案第8号 認定こども園規則の意見聴取について

(2) 報告事項

第1 平成28年度墨田区立学校「体力テスト」結果について

第2 教育課題の進捗状況について

3 会議の概要について

教育長 それでは、本日の教育委員会を開会いたします。本日の会議録署名人は阿部委員にお願い

します。本日は、議決事項2件、報告事項2件を予定しております。

議決事項第1・・・資料P1～4

議案第7号「旧あずま図書館の用途廃止について」を上程し、ひきふね図書館長が資料のとおり説明する。

雁部委員 あずま図書館にあった蔵書、本はどうなるのですか。

ひきふね図書館長 ひきふね図書館に全て移管しました。

坂根委員 地番が2筆の一部ということは、中小企業センターと分かれるということですか。

ひきふね図書館長 一つの建物の3階がひきふね図書館でして、中小企業センターも含め、その全体が文花一丁目1番19、20、21の一部ということです。

坂根委員 2筆ということは、ほかにも分かれているものがあるのですか。

ひきふね図書館長 2階部分が中小企業センターになっておりまして、3階が図書館となっておりますので、建物自体は一つで、そこが全体だという形になっています。

坂根委員 2筆の部分は、建物で分かれるのですか。

ひきふね図書館長 建物自体は階層ごとにと分かれています。

教育長 この2筆というのは、敷地のことですよ。敷地のことだから、建物の階層は関係ないですよ。

ひきふね図書館長 土地全体に建物があるということではなくて、文花一丁目1番19、20、21の土地の一部にまたがって、この建物があるという土地の表現になっています。

すみだ教育研究所長 住居表示と土地の地番というのは異なっておりまして、住居表示では、全体の建物に対して1つ指定されます。地番では、建物は関係なく土地を表すので、筆が分かれることがあります。それが全部で3筆あるということです。

坂根委員 では、階層は関係ないということですね。3筆全部が中小企業センターなんですね。

すみだ教育研究所長 その3筆の上に、中小企業センターが建っておりまして、その中の部分が図書館になるということです。

教育長 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

教育長 それでは、議案第7号は原案どおり廃止することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、原案どおり廃止することにします。

議決事項第2・・・資料P5～7

議案第8号「認定こども園規則の意見聴取について」を上程し、庶務課長が資料のとおり説明する。

雁部委員 認定こども園を具体的に推進していくに当たって、どこから始めるか決まっているのですか。

次長 概略としては、保育園の整備計画をつくっておりまして、10園をこども園化、5年程度で実施していくという形になっています。今はっきりしているのは、来年の2園と、平成30年に2園ということです。

坂根委員 審議した後、教育課程をということですが、4月1日に間に合いますか。

指導室長 規則の付則 2 に書いてありますように、準備行為等については施行日前から行うことができますので、既に教育課程等についてレクチャーはしております。

坂根委員 では、十分時間的にも間に合うということですね。

教育長 それでは、議案第 8 号は原案どおり回答をすることにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、原案どおり回答をすることにします。

報告事項第 1・・・資料 P 8

「平成 28 年度墨田区立学校『体力テスト』結果について」、指導室長が資料のとおり説明する。

浅松委員 小学校 1 年のレベルで既に東京都と + 1.9 という差が出ているのは、幼稚園でも保育園でもいろいろな遊びを通じて体力向上につながるような、そんな工夫を何かしているのですか。

指導室長 今年度と昨年度の公立幼稚園の研究テーマは身体表現ということを取っておりますので、やはり体を動かすというようなことをメインに研究をしているものが成果になっているのではないかと思います。それ以前にも、体力に関する取り組み等は幼稚園で実施していただいています。

教育長 幼保小中一貫教育で、何か体力の連携をしているところはありますか。

すみだ教育研究所長 幼保小中一貫教育では縄跳びを使った教育で、両国中学校では大縄跳びを行うとか、そういった取り組みをやっているという情報は得ています。全てのブロックで、体力向上という形で行っているという話は聞いていないと思います。

教育長 全体的に上がっているから、公立だけじゃなくて私立も同じような取り組みをしていないと、+ 1.9 という数字にならないと思います。またもしそういうことが分かりましたら、報告してください。

阿部委員 種類がいろいろありますが、墨田区の得意なものや不得意なものというのは分かりますか。

指導室長 投力や持久力あたりは、多少得意なのではないかと思っています。

坂根委員 全体が上がっている中で、墨田区が上がっているということはすばらしい結果ですね。指導の先生方を、ぜひ褒めていただければと思います。

指導室長 ありがとうございます。

報告事項第 2・・・資料 P 9

「教育課題の進捗状況について」、所管課長が資料のとおり説明する。

庶務課長 (学校 ICT 化の推進について説明)

すみだ教育研究所長 (すみだ教育指針の策定、学力向上新 3 か年計画の実施、幼保小中一貫教育の推進について説明)

スポーツ振興課長 ((仮称)総合運動場等整備事業について説明)

教育長 5 件の報告がありましたが、何かご質疑・ご意見はありますか。

坂根委員 ICT 化の推進で、庶務課の岸川参事を始め庶務課の職員の多くが授業参観に行っていますが、学校に行ったときにどういうものを見ているのですか。庶務課の方たちが何を見ているのか、職員が今どういうふうにいるのかということはもちろんそうですけれども、内容についてもこちら知りたいことがありますので、報告書ではなく、メモ程度で結構ですので、何かいた

できればと思います。

庶務課長 少し考えさせていただきます。

浅松委員 今回、1月25日、26日と集中していて、各学校の事情で、公開しやすい時期、行事等の関係から集中したのだと思いますが、平日でもあることで、やはり地域、保護者の方ってなかなか見ることができないと思います。土曜公開等でICTのところは結構人が集まっていました。今、坂根委員からもお話がありましたが、ICT関係で庶務課の方々が本当に熱心に見ていて、私もよく会いました。一方では、指導室でも研究授業を含めて学校に立ち寄って授業を見ることもあるという中で、庶務課の方々のちょっとした声を聞くと、ICTの活用のところだけではなくて、授業の部分での指導について、見方がいろいろある中で、その辺を教育委員会の中で、集約できればいいと思います。いわゆる授業改善ヒアリング等も行っているわけですから、また教育委員も見ているので、何かその辺をひとつまとめていくと、定点観測ではないのですが、ある教員を春見たときと秋見たときで全然変わっていませんでしたので、私はちょっとマイナスの評価を持っています。たまたまこの間見たら、全く変わっていない中で、実際に非常に指導改善が困難な教員なのかなと思いつつ、いろいろな情報を集めながら、一方でヒアリングで校長から聞き取ると同時に、そういったところもちょっと目をやったらどうかなと思っております。

庶務課長 おっしゃるとおりで、ICT化の推進はやはり授業改善であると思いますので、教育委員会の中でも情報をきちんと共有して授業改善につながるように、庶務課の視点で見ると、どうしても機器等のほうに目がいってしまうのですが、そういった視点を持ちながら情報共有をしていきたいと思います。

教育長 ICTについては、まだまだ発展途上というか、導入したばかりなので、庶務課のコンセプトとしては、ある程度学校に自由に使えるというのがあります。そうしないと使わなくなる可能性もあるので、ある程度自由にしています。

すみだ教育研究所所長 ICTについては実質、今年から活用ということで、庶務課と指導室とすみだ教育研究所で具体的に、教員の使いやすいようなコンテンツを入れようと少しずつ進めているところです。ただ、まだ始めたばかりですので、方向性だけでも改めて確認していきたいと思えます。また、授業改善ヒアリングについても指導室と一緒にしております。校長からヒアリングしますと、今まで機器を活用できなかった先生が積極的に活用するようになってきて、いろいろ工夫も出始めたようです。少しずつ進んではいますが、まだ少し調整というか、考えるところがあるという意見が結構出ておりますので、整理させていただきたいと思えます。

教育長 ICTの中身については、授業の改善のところで発展途上の形にはなっていますので、また委員の先生方にご意見をいただきつつも、事務局での案も示していきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

指導室長 ICTの活用云々の前に、授業そのものという部分の課題も当然あります。そういう課題がある場合には、必ず校長、もしくは副校長に、きょう授業を見たけれどもこうでしたよというフィードバックをして、校長先生のほうからご指導をお願いしますということは、逐一見て、すぐにやっている部分もあります。また、ICTも、今言ったように活用の部分でも、ただ流していればいいというわけでもないのです、どうやれば効果的なのかということについても指導しなければいけないと思っています。今、庶務課のスタッフは、私が指導、講評していると、大体それを撮影して、それを自分たちで整理して、なかなか自分たちの言葉で言えないときには、「指導室長がこう言ったでしょう」というようなことで学校に返すということも視野に入っているように聞いており

ますので、その辺もできたらと思っています。来週、区の小学校の研究会を行います、情報教育部会が発表しますし、中学校も技術家庭部会でICTの活用のことについての発表がありますので、そのときにも私のほうから意図的に触れていきたいと思っています。

教育長 浅松委員が言われたのは、個別の対応ということではないと思います。要するに、全体的なものなので、その全体的なものは、先ほどお話ししましたように、すみだ教育研究所である程度平準化したものをつくりますので、それについて各教員が取り組むような形になると思います。従来の授業の中でやるということもやりつつやらないと、ICTは授業力がないと、結局振り回されるだけになってしまいます。見に行ってお分りのとおり、例えば授業の狙いの共通狙いを最初にやっていないとか、そういうこともあるので、それはICT化で解決できる内容なので、何かそういったものについてもっと底上げを、短期間でやらなければならないと思います。それはICTを使わないとできないと思います。ただ、そうはいつでも、指導室長が言ったことも徐々になんですけれどもやっていかないと、ICTだけというのはなかなかうまくいかないと思いますので、そういったことで計画を、また研究所のほうで工夫だとか、そういうものについては今後、折々で出していきたいと思っていますので、またそのときにご意見をいただきたいと思います。

雁部委員 チャレンジ教室についてですが、受ける子どもの人数が増えてきたように思います。まだまだ始まったばかりなので、チャレンジ教室に通っている子どもたちの、まず学力がどれくらい上がっているのかという成果が見えてくるようになればいいなと思います。時間がかかるかもしれませんが、ぜひ続けていただきたいというのと、今、ICTの話が出ましたけれども、チャレンジ教室も、ぜひ余裕ができればICTを駆使してやってみてはどうかと思います。その辺はどうでしょうか。

すみだ教育研究所所長 まず、学力面での成果ですが、ご指摘のとおりでして、チャレンジ教室が始まる前に、対象の生徒にプレテストをさせます。基本的には小学校は算数、中学校は英語と数学ですが、終わった後、例えば土曜日コースでしたら3か月くらいたって、もう一回同じ内容のものをやってもらいます。そうすると、大体60点、70点ぐらいなのが80点、90点程度、点数でいうと20点ぐらいアップするということです。大体どのチャレンジ教室でも同じような傾向が出ています。もう少し長い意味での区の学習状況調査との関係とか、そういったところも調べていくということも、課題として認識させていただきたいと思っています。それから、チャレンジ教室へのICT導入ということについては、研究課題になりますが、実態としては個別の少人数指導ということで、その子どもたちとの人間関係を構築して、それで具体的に細かく話しながらやっていくので、やはり人とかかわりの中でしっかりやっていくということが大事なのかなと思っています。この件については、長期的な課題として考えさせてください。

阿部委員 皆さんの意見はそのとおりだと思います。私もICTに関しては、公開授業を拝見しても、確かに黒板に板書する時間等は、節約にはなっていますが、失礼だけれども、必ずしも上手く使っているという印象はありません。それで、先生方によって、なるほど、いいことを教えているなという授業を、同じ時間帯で、例えば隣のクラスで同じことを違う方法でやっていたりするので、先生方同士が他の先生の授業をICTを使って見るとか、一々学校に行かなくても、その学校のいい先生の授業を別の学校の先生が参考にして自分で取り入れるとか、先生方もICTを自分の研鑽けんざんに使えないかなということも、ちょっと何件か見たときに思いました。

教育長 動画ですね。東京都でも動画に撮って研修で使いますが、短くないと意味がなくて、授業の展開の中では45分とか50分なのですが、それだと長過ぎてしまい、ほとんど見ません。研修

か何かを使うとか、解説つきじゃないとだめで、逆に言うと、ユーチューブみたいに短い時間のポイントでやらないとなかなか見なません。1回は見ますが、解説つきで、要するに研修を学校でやらないと、自己研鑽^{けんさん}的なものとか、自分でやったりするというのはすごく難しいです。動画というのはすごく難しいし、子どもたちに見せても飽きちゃいますよね。やっぱり教員も同じだと思います。今回、すみだ教育研究所では、中に学習指導案だとか、分かりやすい教材だとか、そういうものを入れて、宿題については3学科入れるとか、授業の展開で狙いを最初に表示できるようにして、授業の中である程度つくることができるので、その中で自分が工夫して、ほかの教材も入れるということはできますので、そういうようなものをつくってから工夫をさせないといけないと思います。阿部委員がおっしゃるように、先生によってやり方が結構ばらばらなので、それを平準化、いい授業はもちろんいいのですが、まず基本的なものをつくらないと、従来実施していたものを、ICTを取り入れたからといって、私は効果がないと思います。レベルが高くなればそういうことも可能だと思えますが、まだまだそこまでいっていないというのが現状だと思います。東京都でも、各区でもいろいろ実施していますが、自分のところで実施しているといいと思ってしまいますが、ほかへ見に行くと「えっ、何」という話があります。その辺は発展途上というのがあると思います。ただ、ICTは何で使うかという、みんなが同じ方向を向く、要するに効果のあるものをやるということが必要だと思います。その辺がすみだ教育研究所で今取りかかろうとしていることなので、それができれば、ある程度平準化できて、その上で工夫ができるという形になっていくと思います。

阿部委員 余計なことですが、子どもはいろいろな学校を見られるので、いい授業だとか、よく分からないとかと比べられるんですけども、先生方は、ほかの先生がどういう授業をしているのか、それをつぶさに見るチャンスが多ければ多いほど、自分の授業と比べて子どもたちの反応とか、教え方のうまい、要領がいいとか悪いとかということが分かるのではないかと思います。だから、先生方がほかの学校なり授業を見るというチャンスを出来るだけ作ってあげられればと思います。

教育長 そういうチャンスはつくってあります。例えば区小研とか区中研とか、やっているところではやっています。それで、例えば指導室長が行って指導をすると、そこまで言ってほしいと思うんです。本当は見るだけじゃなくて、どこがポイントになるかというのは指導室長とか指導主事が解説しますから、そこまでやってもらうと意義がはっきりしてくるのですが、見る機会はつくってあります。

坂根委員 私も、パソコン教室で大学生に発表させたりしていますが、さっきおっしゃったように動画の場合は、発表型のもので使えますが、時間的な制限もあります。それから、小学校は基本的に教員が全科担当ですから、全員自分のクラスに入っており、中学の場合は同じ科目、特に英語とか数学は少人数でレベル別になりますと、ほとんどそのほかの先生の授業を見るのが難しいという状況があります。ただ、小学校で道徳教育なんかはみんな同じようにやって、1年生に3クラスあるとしたら、板書しているものが全部違います。それを例えば校長、副校長なり、教務主任なり、その板書の一部だけを撮って、それを見ても授業研究ができます。つまり板書での情報量が多い少ないか、そういうことだけでも研究というのはできると思います。授業参観に行くと、校長先生には気の付いた今言ったような点を申し上げていますが、学校内で研鑽^{けんさん}するというのは、人的にも時間的にも難しいこともありますので、申し上げたように工夫しながら、地道にやっていくということが必要だと思います。

教育長 研修制度では、外に行くと時間がないので、オン・ザ・ジョブで、学校内で研修をやるというのを結構重視しています。ただ、そうは言っても、区小研とか区中研とか外で見る機会という

も重要だと思います。すごくいい授業というのは、録画してポイントを短くして出すというのも一つの方法だと思います。その辺は、またすみだ教育研究所や指導室のほうで、体系を説明しながら詰めていきたいと思っています。

- **教育長** 以上で、教育委員会を閉会します。